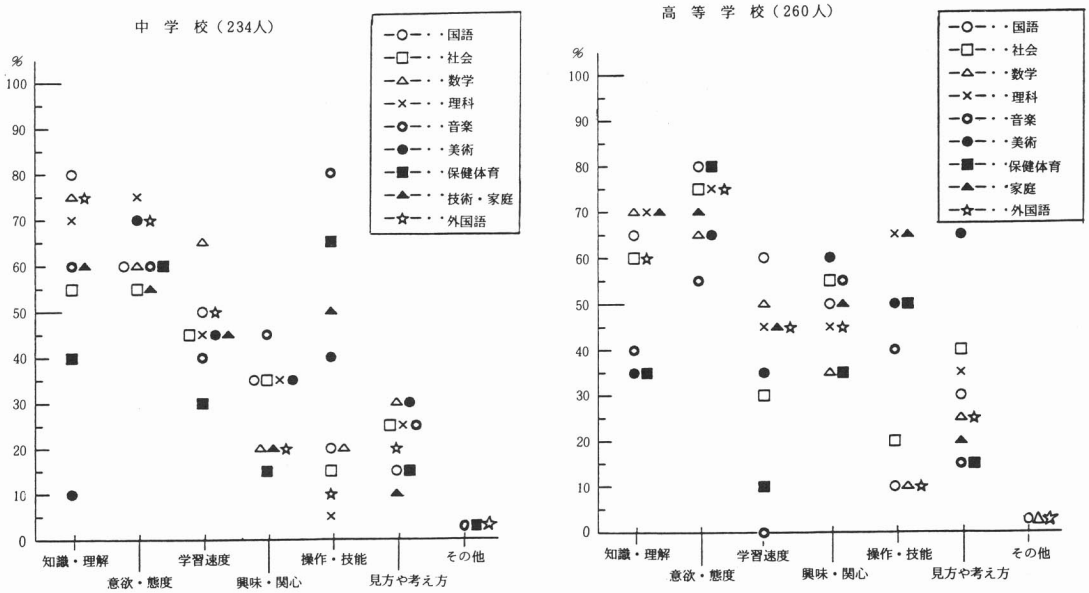
- 個人差を感じる対象として，小学校では「知識・理解」と「学習速度」の２項目が比較的高い割合を示し，「興味・関心」が低い割合を示している。
- 中学校では，「意欲・態度」と「知識・理解」の２項目が比較的高い割合を示し，「見方や考え方」が低い割合を示している。
- 高等学校では，「意欲・態度」がかなり高い割合，「知識・理解」が比較的高い割合を示し,「見方や考え方」が低い割合を示している。
- 小・中・高等学校の関連についてみると，校種間における差がないのは「知識・理解」と「見方や考え方」の２項目である。「知識・理解」は高い割合を示し，「見方や考え方」は低い割合を示している。
- 小・中・高等学校と進むにつれて割合が高くなっているのは，「意欲・態度」と「興味・関心」の２項目である。特に，高等学校における割合が，小・中学校よりかなり高くなっている。
- 逆に，小・中・高等学校と進むにつれて割合が低くなっているのは，「学習速度」である。

＜図２－３＞　個人差を感じる対象（教科別）



- 個人差を感じる対象を教科別にみた場合，まず，中学校では「意欲・態度」がすべての教科において高い割合を示している。逆に，「見方や考え方」はすべての教科で低い割合を示している。他の対象項目では，教科によってかなりの差がみられる。
- 高等学校において，教科による差がみられないのは３項目あるが，「意欲・態度」は高い割合，「見方や考え方」は低い割合を示し，「興味・関心」は中間に位置している。他の対象項目では，教科によってかなりの差がみられる。
- 中・高等学校ともに「知識・理解」，「学習速度」，「操作・技能」の３項目が，教科によって